

On The Board / マリン企画

Van Morrison Tupelo honey

夏、サン・フランシスコからゴールデン・ゲート・ブリッジを北に向かうと、マリン・カウンティーと言う郡がある。橋を渡ったらすぐ築くのはほとんど毎日ぐらいにサンフランにかかっているきりがないこと。高速を2、3キロ走ると、大きなトンネルが現れる。そのトンネルの入り口には虹が塗られている。マリン・カウンティーはその虹のように明るい場所だ。自然も沢山のこっている。元々たくさんさんの牧場が有ったとこだけど、今はその土地がどんどんオープン・スペースと言う市民達が使え自然になって行っている。家が建っていない牧場の土地をそのマリン・カウンティーが買っている。牧場のオーナーが土地を売りに出すと、マリン・カウンティーが買ってオープン・スペースにしてしまう。そのオープン・スペースには沢山の動物もいる。コヨーテ、ボブキャット、ウサギ、狐、アライグマ、鹿、ヘラジカ、スカンク、イノシシ、ピューマまでいる。そして不便だけど、波も沢山の有るけどそこには、ペリカン、オットセイ、トド、とグレートホワイトも沢山のいる。

最近のカウソがまた戻ってきたそう。今でもその郡にある街は50年代、60年代の町並みと雰囲気も残っている。一番大きな街のランラファエルはあのジョージ・ルーカスの名作「アメリカン・グラフィティ」のセットになった。今でもそのままで残っている。

音楽ファンに取ってはよく出てくる場所だ。この自然の中に住んでいるアーティストは、グレートフル・デッド、クイックシルバー・メッセンジャー・サービス、ジェファソン・エヤープレーン、サンタナ、そしてバン・モリソンも一時ここに住んで何枚のアルバムを作っていた、

その中、彼がフェアファックスと名の小さなヒッピー達が沢山住んでいる村に住んでいた。そのダウンタウンには25件ぐらいしか、店もない。スリーピング・レーディーというヘルスフードカフェもあった。70年代から禁煙だったな。そこでは毎週土曜日はブルースバンドのライブもやっていたけど、ミュージシャン達は皆外で煙草を吸っていた。

ベルファスト生まれのアイリッシュのアーティストのバン・モリソンは70年代の後半にはニューヨークの近くのウッドストックに住んでいたけど、ウッドストック音楽フェスがあんまりな最大の話題になったため、混んでしまったので、そこを逃げ出す為に、当時の奥さんの実家もあるカリフォルニアに日こすことになった。

インダストリアルなベルファストのミュージシャンがこのマリン・カウンティーの緑と自然の中で暮らすと音楽も明るくてなって、暖たくなるんだなと思った。

僕がここにきたときには彼はもういなかったけどね。